2025 年度　　授業概要

科目名	生体機能代行技術学概論					授業の種類	演習	講師名	
授業回数	8	回	時間数	15	時間　1　単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	1年　通年

【授業の目的・ねらい】
医療機器全般に関する概要を知る。本講義を生体機能代行装置学、治療機器学、計測機器学を学ぶ準備という位置づけとする。

【実務者経験】
臨床工学技士として、病院にて、医療機器管理業務をはじめ、手術室業務・血液浄化業務・救急医療などに従事経験。

【授業全体の内容の概要】
各医療機器の使用目的、構造及び機能について、臨床工学実習室での機器を用いた説明・実習及び座学にて学習する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
・医療機器全般についての概略を知り、簡単な説明が出来るようになる。

回数	講義内容	準備物(教材)
1	授業ガイダンス、1次救命処置（BLS）が実践できるようになる	
2	1次救命処置（BLS）が実践できるようになる	
3	血液透析回路の流れが理解できる	
4	血液透析分野における落差プライミングが可能になる	
5	人工呼吸器の回路構成が理解できる	
6	人工呼吸器の始業点検および使用中点検が実践できる	
7	人工心肺装置の回路構成が理解できる	
8	呼吸・循環・代謝以外の、その他生命維持管理装置の役割が理解できる	
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】
・臨床工学技士標準テキスト 第3版、小野哲章、金原出版株式会社

【準備学習・時間外学習】
・準備学習として当該範囲の予習をして授業に臨むこと
・授業内で学習した実技内容を、時間外で繰り返し実施し実践力を高めること

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】
試験の結果を100点満点として成績を評価する
実技試験を30点、定期試験を70点として合計100点とする
60点以上の場合に科目を認定する